令和7年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
402	川崎市立幸高等学校	百瀬　実

学 校 教 育 目 標	学校経営の重点項目	今年度の重点目標
1 広く豊かな心と教養を持ち、自主的精神と態度を身につけた誠実清楚な人間を育成する。 2 礼儀と秩序を尊重し、責任感と協調性を持ち、社会の変化に対応 できる力を育成する。 3 確かな学力を身につけ、専門的かつ国際的な視野を持ち、自己の可能性を追求する力を育成する。	◎豊かな心の育成 ◎確かな学力の向上 ◎魅力ある学校づくり ◎安心・安全な学校づくり	○規範意識を高める教育活動の推進 ○主体的・協働的な学習の充実 ○探究活動等を通じた家庭や地域との連携・協働 ○交通安全教育の推進

評 価 項 目		具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
1	◎豊かな心の育成 ○規範意識を高める教育活動の推進	・いじめ根絶に向けた継続的な指導の実施 ・共生/教育プログラムによる人間関係の構築 ・挨拶、身だしなみ、時間を守る等の自己管理能力の育成 ・SNS等のトラブル未然防止に向けたコミュニケーション能力の向上 ・特別な配慮を必要とする生徒への対応	【成果】 ・「学校生活アンケート」を2回（5月/10月）実施し、生徒の学校生活状況の把握に努めた。生徒情報を迅速に教員間で共有しフィードバックできる環境を整えて、いじめ根絶に向けての継続的な指導を実施した。 ・登下校時の見守りを通じて、基本的生活習慣を確立させる取り組みを進めることができた。教員から積極的に声掛けを行うことで、きちんと挨拶ができる生徒が増えつつある。 ・保健室やカウンセリングルームを活用し、生徒が悩みごとを相談しやすい環境づくりを進めることができた。必要に応じてケース会議を開催し、生徒の困りごとを解消する具体的な手立ての構築を図った。 【課題】 ・学校での過ごし方を再認識して、他を認め思いやりを持った言動を心がけるよう引き続き指導していく必要がある。SNSの使用については、インターネット講演会などを通じてトラブル防止に向けた注意喚起を図らなければならない。	・生徒の社会性やコミュニケーション力の向上を図るため、体育祭や文化祭等の校内における自治的活動への参加はもとより、地域連携の活動にも積極的な参加を促していく。 ・インターネット講演会を実施した後、事後アンケートを確認してSNS等が適切に利用されているか否かを把握する。 ・外部人材を活用した講演会やワークショップの実施。実施後の振り返りと生徒へのフィードバックによる意識改革の促進に取り組む。
2	◎確かな学力の向上 ○主体的・協働的な学習の充実	・家庭学習の定着に向けた自発的な学習の推進 ・学習評価を通じた学習指導の改善 ・「表現力/発信力育成プログラム」の作成 ・学びに向かう力を育成するための授業の推進 ・校内OJTによる授業力向上の研修/実践 ・タブレットを活用した授業実践の共有	【成果】 ・生徒各々が所有するタブレット端末へ学習資料を送信したり学習課題を配信したりして、個別最適な学びを推進することができている。生徒が積極的な姿勢で授業に取り組むようになってきた。 ・スタディサポートや模擬試験を実施し、学びに向かう力の育成に取り組むことができた。 ・10月に校内OJT研修を実施し、指導力向上を目的とした研修を行った。「GIGA端末の効果的な活用」と「生徒の主体的な学習・活動を引き出す授業の工夫」を研修テーマとし、実践事例研究を行うことができた。 【課題】 ・ICT機器を用いた授業実践の積み上げと、生徒の学力向上を目途とした更なる有効活用のあり方を探る必要がある。 ・生徒の家庭学習の定着に向けた、具体的な手立ての導入が必要であろう。	・新学習指導要領に基づいた学習指導の在り方と、指導と評価の一体化について更なる研修と研鑽を深めて共通理解を図る。 ・特別講師の解説による授業支援ソフトの活用事例報告や活用方法の研修を開催する。 ・「家庭学習の定着に向けた自発的な学習」を推進するための条件として、何が必要で、どのような手立てが有効であるのかを検証する。

3	◎魅力ある学校づくり ○探究活動等を通じた家庭や地域との連携・協働	・商業教育の活性化に向けた研究の推進 ・インターンシップの実践 ・普通科における生徒の進路実現に向けた取組の推進 ・自己の在り方生き方を踏まえたキャリア教育の推進 ・幸探究の発展的継続と課題研究の充実化/豊富化に向けた取組 ・全教員による「リサーチ基礎」への取組と共通理解	【成果】 ・外部人材活用を促進し、商業教育の活性化を行うことができた。 ・ビジネス教養科1年次におけるインターンシップでは、41の事業所の協力を得て118名の生徒が参加をすることができた。実社会における経験値を上げ、生徒自らのキャリアプランに生かすことに繋がった。 ・「生きる力の創造講演会」を実施し、自己の在り方/生き方を考える機会とした。 ・1月に幸市民館ホールに於いて、探究学習成果発表会と課題研究の授業実践報告会を開催した。代表生徒が今年度の取り組みを発表し、事例を全校生徒で共有することができた。 【課題】 ・インターンシップに臨む生徒の動機づけと、目的意識を向上させる取り組みを継続する必要がある。 ・探究活動における実践を総合選抜型の大学入試に活用する生徒もおり、高校生活3年間を見通した探究学習指導計画の構築が必要となってきている。	・3年次の就職活動にインターンシップの経験を自己PRとして生かす生徒がいることからも、1年次から動機づけをしっかりと行い、高校生活3年間の生活を見通した就業計画の構築を促す。 ・生徒が主体的にインターンシップに臨めるようにするため、就業体験をする事業所を生徒自身が積極的に調べることのできる工夫を行う。 ・大学進学に関しては、多様な入学者選抜の型に対応できるように生徒への情報提供を行う。2年次には学部学科の希望を明確にし、具体的な進路計画を考えるよう生徒に促す。
4	◎安心・安全な学校づくり ○交通安全教育の推進	・計画的な防災訓練/避難訓練の実施 ・交通安全と自転車マナーの指導の徹底 ・事故未然防止に向けた安全管理/確保の体制の充実 ・定期的な学校施設/設備の安全点検の実施 ・定期的な校内巡視の実施 ・報告/連絡/相談の推進と記録の徹底 ・情報配信の迅速化	【成果】 ・7月に防災訓練/避難訓練を実施し、地震を想定したシェイクアウト行動の訓練と帰宅グループごとの集合訓練を実施した。3月は2学年生徒を対象に地域防災スクールを開催した。 ・7月に自転車と乗用車をグラウンドに入れ、実演による交通安全教室（スケアードストレイト）を実施した。 ・PTA主催による交通安全指導を7月と11月に実施した。保護者に登校の様子を実際に見てもらうことで、生徒も保護者も交通安全に対する意識が高まったと思われる。 ・大規模な校舎外壁補修工事が10月に終了し、破損個所の修繕が進んだ。 ・学校施設や設備に関しては、日常の安全点検や不具合の早期発見に努め、生徒と教職員が安心して教育活動を行える環境づくりがなされている。 ・学校からの情報配信に関しては、「学校からの情報提供や連絡に不足を感じることはなかった」という保護者向けアンケートの問いに対して、回収された回答のうち80.5%が肯定的に回答している。 【課題】 ・自転車通行の苦情が学校へ複数寄せられた。登下校において交通ルールを守る指導の継続が必要である。 ・破損個所の修理復元に時間を要し、教育活動に支障が出ることがあった。	・交通安全指導を継続していくことと、日頃から自転車通学者への交通ルールの遵守を促していく。保護者にも協力をしてもらい、生徒の登校の様子を見てもらう。 ・教員も率先して登下校指導ができるような学校体制づくりを考案する。 ・職員による校内巡回を継続することと、ビルメンテナンス担当者からの報告や相談について、関係各所と連携し、速やかに対応することを心がける。 ・情報配信ソフトへの登録を保護者に促し、滞りの無い情報提供を目指していく。

学 校 関 係 者 の評 価	学校運営のまとめ
【6月と2月に開催された学校運営協議会より】 ・祭礼と地域のイベントに幸高校の生徒に参加協力をしてもらい感謝している。来年度も引き続き協力をお願いしたい。（地域代表） ・体育祭と文化祭の両方を見学させてもらった。生徒たちが元気に活動する様子を見て、こちらもエネルギーをもらい若返った気がする。（地域代表） ・自転車登校生徒が交通ルールを守っていないと町内会で話題になることがある。引き続き交通安全指導をお願いしたい。（地域代表） ・PTA役員と生徒会役員との交流会があると良いと思う。生徒から学校での困りごとを積極的に聴き、保護者の立場として協力できることを模索していきたい。（保護者代表）＊昨年度にも同様の意見あり ・学校経営計画に基づいた学校運営が志願倍率に結びつき、良い結果につながっていると思われる。（有識者） ・インターンシップへの参加は、生徒が興味を持って取り組める企業で行えると良いと思う。（有識者） ・GIGAスクール構想の推進に期待をしている。AIが活用される時代であるが、思いやりの気持ちや自分の考えをしっかりと持った生徒の育成に力を注いでほしい。（有識者） ・学校評価アンケートの回答が概ね肯定的な結果となっている。保護者からの学校教育への関心が高まってきていることの証左であろう。更なる発展に期待する。（有識者）	【今年度の総括】 ・「幸探究」や地域行事への参加協力を通して地域理解を深め、他の意見を尊重したり協力し合ったりすることの大切さを生徒に学び取らせることができた。生徒の豊かな心の育成に繋げることができたと感じている。 ・地域に於ける生徒の活動が地元広報紙に掲載され、活動のモチベーションが上がった。 ・教員の授業力向上を目指し、期間を設けてOJT研修を実施した。今後も研修テーマを明確にし、教員研修を奨励していきたい。 ・「幸探究」や「課題研究」で取り組んだ成果を発表し、互いの研究を評価し合う機会を設けることができた。保護者も参観できる施設の確保や日程の調整を今後の課題としたい。 ・SNS等の使い方や交通安全に係る指導は、日頃から生徒へ声掛けをする必要があると再認識した。 ・校舎外壁の修繕工事と内壁の塗装工事（一部）のが完了し、生徒と教員がよりよい環境で教育活動を行えるようになった。 【次年度に向けて】 ・地域とのつながりを大切にし、お互いを認め合える豊かな心の育成に努めていく。 ・「幸探究」の更なる充実と3年間を見据えた指導計画の構築に引き続き取り組む。 ・報告/連絡/相談といった基本的な連絡体制を大切にし、教員間で共通理解を持って生徒の指導や見守りに従事する。 ・悩みごとや困りごとを抱えている生徒を早期に把握し、ケース会議を開催したりカウンセラーにつなげたりする取り組みを迅速に行っていく。そのための体制づくりをしっかりとしたい。 ・情報モラル教育を充実させ、スマートフォンやSNS等の適切な使い方を促していく。 ・交通ルールを遵守することへの指導を継続する。